

中

卷三

かうぶのまゆ中
第四よ死くとソノハ一まいれくよみをせひよ
あこりへたまときもあくともつてだい一とす八万
四千ルちゃんらうもんうち大ひんやうといふノ勢
ふ勢きくわてでナニれはまめしよふもぬくひや
まのせめきくもひくみきうあくかくわいもんと
わりふりをいれほほんと思ふもんすぢや
えふかきわあれハ神よいめりすももーーをく
かとうふあけをもひすよ水保雅忠うくもる
もかふりとくそんせくめいうまうもりこす
とくとくあごのたくとくのえあすずくはり



行きてこのものもおれへとまきをうどき
をもいりすあふとる人うとふうとしきくは
もんがあなわらそめ力うれふあわざへと
たちがつまはきうきあひなりいとんやいま
まふもんねうがふもとろくれ國へおじむ
まくいづふゆめふうありんじらんとくぬふ一目
もくもももももくまわんあひをすりひくう
ひとわうて歩くゆうんぬじうちきうもわがふ
てえんトやうれきんはまゆまもおもてとあ
今あやこふれもおそゆくすよ風一きん
りくまもやくそん事といとあんげうれハ

まよ一すらもこもれいとのひゆは
ともかくはせきよんうニそれとかちやうをもる
つまはあよまきへーひよちゆうれやみち
むうひらまくのくろんとしけてうんまめらやう
にせうわてほえれきやうらうとくさあく時ほ
ふきうとちんはきたしやうりまわくみくわ
をくわくいふきいはくわーつことくやくうひ
きやもせひひあやこちんふ、もとそとそすへま
とあめぞうけへももたやうとくうまほみくわ
きとくくーとくくふくふくのなーくく
つくれひらうりそそほのまうけふきくそり

れてよきをあくすむ室をもつて人ちうきやうに
えーーちゃんやうきうきよいさんもやうもうたぬ
すのうんゆいふいふをぬうじううんせこせい
えんーーとあらうのとんねんハヌシスルシテおよび
よのいいのちれがりまよのそむけハタマリ
リ次ううひとふせとくとんせはせれともるわ
くわとうたまくかをうえあぬきやうゆほえ
くくとくでざいわうづくふあくあくひわと
とうきわみくちやほんねといちやうふよくん
くふトヤモすいトやううんゑんはよくくう
きんわうりほうくらうゆううんむようんとあわ

は心ハたすくじよきてうんちくぬりわすきぬ
れとくふふ小ちくひてうんぬよにらうつきぬ
えんへゆうんとほきハうひひうてやうやうれふ
すまんとすれへがれをきふあれとぐわれいえん
ぬ玉はつうひハううきをもつとまきもまきうじ
あまーのとくもくあくふらうくそつハトトよ
をもおろううあうきひうりとかーとくもくなら
う室ひ太圓れをうらめんのうんまふとふのうり
まちわうてよのぶんきてうあやくのひうわは清
内としけとくふとくもくをまつすいりんやまうけい
うんかくうをひてとややうきひうぬうんばえ

あらへりとをもととごつめりハふきとの
 さくとわむれをりこまちやううる
 んふもうそつはうちすうんのまくううら
 のうゆゆりもあやう乃ぬよれりとものけ
 うるーとらへくはうやうまやううらうする
 ーこうわゆいうらういがんうあらられ
 ーもひらとくまうりあみふ二ばりす
 てにかくらねてんかのをまうみ小りうあせ
 リ山かうまれぶんほうじくんといわ
 わりんわうもほおみあくときねうめうりあ
 ううめうううううう

うわともとゑへれーとやびりへまつと
 そこふもあひのあえいうちきり
 みへ入日ハひうにかくゆきまくへふ、鷹秋
 みかへきうまほまく人ハかあひもきていち
 うきひきあ事うふもひれうてともきう
 もとふくらたまーぬハひもひめいとめくみ
 とうくふんわんをとれうれとがく、
 まきうのんをくふひとれきうふくよ
 草風ううひやうれうソヒとき
 ばれすまうなやまなわきり

ひくらおとづ遊のいのちとりりよハ
ほゆハ歌をイケモ下るきわ

又トミヘトヒ

みふもとれいのちと遊小たとふはハ
まきしとうとけもあわくわ

かくせハ法原

ありひきやまきすみうとうきそとそ

きもきつもとときほんせんせん

た京大丈あきわかつよア

せんへまきハレタれ人やれがりん

そのふもとまねうけたかふのう

方立ふぢんそふゑくとやハようばよ浮きて

アキラヒとをやなむ花とみまハつ勢に地り月と

みまひ雲よかくえんじつまもかやうれすをも

そじいひしのんと

もふらひの夢のゆきりハれうち

わせノキヘよりてうえん

うちれうのようしげめれえ

月くれれるとくももくもまくまく

めゆ月山れふくまくまく

傍山さんかくう寺

うちもきは月とふ葉ぬれれり

されよわともかくいづりう

おのた大ちいさきう

すよふあよほんじよらもとうハ

うはくはまようみなむも

申納えまひソ

いともあきりみあくはいふと

人れつとをだひーるつと

おこにれ物ありてそんかくねとまきてせハ心

ぬきおふせとあひもととくとおつめ

じうすとあわかくすくほくゆくそむる

すくふ乃つこうし小

うれいせ乃らありとらうてまくも

人そアトとあひひけるう船

すよ乃ふいトうとあふ

ちきわー小わぬけらもあふすの

やあれかはえううとあふ

もあれあ原れなうとあふ

これやいと被のうらとあもて

人れつととくとんをあへま

うとくはうのまくみつとまよ

あさきハひとれまほきくまきう

あらのえあらは小壁に天神ハはくへふうさ
れをまよりあうる一きやうあふやまいくはら幽
へありあれをすひぬえれみふおんぐらふくをち
第六ふあひ魚のまくとすハカツキとすむと
りふなわ是そじのせすむれ一ゆくもすかがハ鰐ハ
ふい風くさうらくとてあひたすくおりよつ
ゆくううかけゆくもあけゆくもむれふときく
ふすいとくんぬとひそむきとつきせきぬとく
つきのわうれどかううちまきハモんとくよ

源のもむはふ

ゆめれむと乃あけはふまよ

うくれいをとくかくわうじらん
人め志げきかば一夜ふもりすあきらまひた
わくまといふぐら夜原のあうすえける
よひはうりのふんとこう月れじゆも
あうてつまゆしげそ遠トき
きういつまく小ゆりうはうせのたうにいき
美たうり一母れうへアヅリ次モ

セテ一やう良も
えうまかとまきれ一鰐うよれりわとみ整體

もや少はほきよやへれまく不う弱
えらはいきと乃わうきふれハ又ひるす事すも

ありぬへとふきりうきのえうかうりま
らうじうふらやうのさうひふせハあやすもをくれ

みふもをくまほまもえだたちうももくふせ跡

みもりくふく人ありもとにとくれあけきて

さんせうわうー

たうちめやと風まをわきと吹き

かりふうりかもふゆのちありどハ

みよこうきてとおのうのうらうめは

人のうへときううとめとあすの山

わうみみちも風よひゆふ

一條巣のれぬこのほみうりえのうねうだり

ねれかうやうううとくそくめがくまふきんち

おりまひがもひととわづひなすひそり、な

あきさまよもやれぬうぬ乃うちつうもくわう

きのきがひいたまひさんねくくへ表ハひとも

だりうんぢりせ一人そそせうんじれ拂れあ

乃がもつひよもやうもうきつらやうもふトやう

えくらくこよつねとはまたまひくにわくせく

だのくらふするかうんあしやまとやう傍れゆあか

あくちようふてんうり

ふくれとそちくされもかへばりまつふ

みむしむかみのみひとかくれてをひそめのちほまわよ
お行きなまひりるにやまいかすなわぬひうれ
かくそもとまよ あいふれ女侍

をくれてもうけるものとての山
きじうち事とまふうじん
一條れ流かくまなまくハ後一條流以まくおとをく
まませハ併とももくしてまきれあわせたぬひり
きちやうとうりんのんに遊人とまくまよ
アスリスアツ遊そら不あとくきめ
くらはれもうぬふすらの花
津御えきよはまかうくまながひけまハ御まくわま

小なもて立川又日

三川れふかのーとまくわく
あやめ草わうねうきのとひようにて
くらはれそかふすみそあれ袖
うれはまふをくれてうるは
立川のゆうぢうはあ
すがひむすがむす まこととまももひせこあ
しりとううつる袖のまくと
みもう小力うかくはまくわくゆるもやゑ
あいふれかほくへすまふがくせとすじくの
おいくそまくいふうくらのみひとかくれてを

されハナリモノのむきえこそくとんとのつ
をわける人ゆくは所ふなうてうききとりよふみ
のみとよ、抱うちよきておとあひぬうれいゆ
うれいとくうちうまのまかですと一門をと
すまでゆく博かゆく出みやんよはーとありせ
てひびくとつぶしゆとまとまけハ我ほまはがゆ
きやつめおもひれもふよくまそがうなう
うおへきおもひれもふよくまそがうなう
ちやきやうれのれりとれひみーてうづつき
くにうきあとみまハ九つ小あうせすとほうによ
うとひつみあうめのこよだりにはつむぢらき
とよふえのふりとつ勢ていりとふるかくれう
へくもれゆうきけきともほめよふれりていゆ
事あらうてのうらへくきやうてんちやうへは
あとすすまうめなとぬきすすとめほめよわわ
げうれとぞよんじる
みふんハもふれたもとよあらにうわ
うけれどよなきふせよ
きうんほをのみまとつよのりまをあけき
けよみふれうる様れまくもよめふ
ふうまれ野へらへーんわくと

らうゆくゆきとしんぢやあそれと志きハ
しきをれ夷へすみそめトテ取けとすわゆま小
ゆくさのすみそめとてすきこゆくされ
わゆくとくと行きてすきこゆくされ
ハトヤくそんハ十一年ルをうんほよをたまひと
はにうめりらくあせたまくハ夙ノミコモ
くふトキヘあむひきなじい時とんだんふ
もとやどいじゆのうせあらてもやらまんのは
はひくうたのあえすはまーとく
ナ六度ノンカ瓦の太アナ六ノ入畠はよ九万ニ
チハラヤトヤヒトウ心よつあひひうきもあ
ふき立ナニふいも行とあきりとれてうれ
へよたけとはよきくがんじふハウん志かう
うめぐすの入穂ヲ水かあひてうせなまよかせう
そんやはうのこトあひ筋ノクおめまびひし
えをせへみきえけふ骨をうこすそん
あひよのかあひりうれあひえとあひ骨の
まくとなつてうめうとひもまたま
うめうとふみをんまねうき
ういりんやちくせれりんゆをひてもやう
てうじくゆきとのうあひきほうてゆとらうじ

乃志ももにちむけむなり まあふとのへあふらひ
めつすと重くそんじまきんたらんの夕ゆわとまね
まいたりとみのもつきてほまれえきとふ夫人
な城内すいれ月小あ風 ほ心うとすもすわ
まくまく人へ ま
ふきあはやまにほとくおをまきと
まかくれすまうれ月 まふ
オセメくふらへうちつれおとひとじるふひす
かううあふ事あらちまうりふれ月をけち
まへてくひまいたくひとひつふえすまいく
まき乃もくもくもとうあすなくとんてん
をうひもくすりへいきよくは二つとくされり
かふくらうほのそみうくみくふり次えり
うつうつう一子とすそげるそくさくうとく
やありひそんうとおよつまほをてすそげる
勢いのぬくとおよつかりみうらみ
九月は今うれしおかげとうそりとそり
ようそばをきくとおよまくされましやん
みゆめうけとひどりとくふ

人ぬめよなもてなふものゝへはしらるる小男ハ
りとつてうるゝれハナムアヌニ
きをみてりうるゝとありふも

以とく余ふれうへすまき

れふふくふとくそんのうとなわらくともちて
くらんせれんやう一ふもやう乃ノ称うひと
うめへきんくあるものとあられみほくそんくあに
やうのきやうとおとふひまよなわえんきん
とつしゅへしりうちきらやうふも
とハまうらによとよもあわ二人のみをむち
こちの小とほうすとふとくいそとりよもれ
まうらによやまひととけてうせぬらく乃らやうふ
くらうえれだまゆのゆのあひひふれハヌシマモと
まゆけうわさゆかとくうそれしゆてんうふをうち
りてへみふうはえ死(死)ハモカニンハムとま
もふあくをしてたんあうすんとよふ山ふ一つくひ
ねまも七日ぬかりうぬの力ありときてても
小ゆきうわりふうとまく母(母)うまくと
小のせくぐるめとまくとひてあまみまうちも
その時二人のこゑひれがふとふうてちうひ
ていもく一きいトキトやう乃せんくあんとえす
けうちつのくろんとほくろんとくふくろんとえす

よち二人のをとくらんぢんせいしこあらむふも
乃まさら女ひみる如柔となちたまひぬそぞう
おやうのちまわふ波ハあまうの三そんゆうゆけ
みれときもふそれ一トあまひゆまれさくらさん
あかれきやうひんよ風うせてつぶなちスリ
てんらくみうくまふうり大内とうひまふ一日
ふであれくまいとくらふをわわう一人の庭
うん聖わ塔をばうかむうひらハウトウヤキハ
あふトヨ殿ハウトウヤキハカウヒツヒズモ
うわぬれどやそさうものをもくはすうてうか
さうとふそのじた事をわやけにゆされハ

福んとてほくすみをれよきらんや
かハナリカ一やうのんくとつよひうほふほ巻て
えのがそめくわくわやうきなわくよひがづ
てんそがそ被まよえぬん大地うんほきハあや
きとあらんハまうほふうきあるゆひう
めりよき廻はういきよあり一とおりひ山とゆ
ゆふむえいかけきやうやはえういもぢんゆ
によくまととのこをよほんハニスハ金にき
すかふせーひれソ急乃くとちうほつとく
もえういくんとくをきうれひりとちうほつとく

カウカヌンハシハシハシの念とふじアにトロア
のミフジアヨルキアモアリカアヒモソノカ
ミトカシヒテミタキトリヨモのアリモヤのミタキ
アセカセレヨミキモアリトロハシハシモアリミタヤ
ハカシヨムミムヨリヒテアリオモアリモトカヤ
トセカシタユリ事ナリトロスルアレラハ
くとのアタキナリのアムニトロスルアヒヒトアス
ミシケトシカシルトモハ人ハ人ハ人ハ人ハ人
アリカシルハシルトモハ人ハ人ハ人ハ人
離セラシカシルトモハ人トアシカハ人ミタキト

アカシアスレハキアリムンカアシトボアスミハ
アシキナリナヒドスドクトモウテルトモウスミ
ハカシタシヌムツキタリヘタマヘワニキシレルム
アミカシルハシルガアレトカトカトカトカト
リムナリ

次小アシトヤアトヤハケラクのスナリカア
ヤツヘモスアシトモカツヒヌミスアレムツ
セカシイシムのアツアチナミタリトトモアセツ
ニツカシアシルハキシムモカツヒキアシル
ナムリ次ヒトロ山シトミタモアテラレテアヨキ
ナアシルアシルアシルアシルアシルアシル

おとくにあらてひあやうのくろんとうくとんとん
トさうハすみよろそーーひととあび大あやうもほ
にくしうもトゆれりとへすけきだたう
ほんのきの下ハモヒウテオのちくじくをまわ
やうちきだいトヤハくは風はひりよつり立か
くらさんハくは風ハ乃ミゆくしたひをやく乃は産
ハぬよされともぶつてつばゆうのノヘハアカ
うききよく乃きわせ秦ハなうトロ星とも
トあくの石い方をせめくわトゆせうちれみわハ
あひよされとむさんれの風のゆハあつうわく四
一ゆれん海ハゆまうわしてともねつてつのまゆ

ス考ハトヒニクうりきカやうれんかくハぬす
スアうだともあやれトゆるふいおそ流トロ
きのきやうれ天トゆハあそしようわトトとあ
モうらせつひあそけをすトシともつてあやう
やうれんきやうアヌ上すくはふうんトやうく
かうらしく志ゆくとくナ六ぬきアヌととまきあく
お殺内里ハヤクナ六ぬきアヌとめくわあわき
絃をきとつとくあくぬとくあくとくとくくーやうし
といとの木あゆアヌとあるやうよかくわざれ小
は女版とくあけきふう業タラムモトコトと
北野とふときてまくちをもきとあんするやうに

おやの處よりいとんやめいのみちにあむむきは
えとれくよしとうさんにてそとやつりて
うほ六乃さんもおまひよまことそそをうかとけよ
あうさんまきまへうもあがしまよまと
まほは女ほとけゆはうめてあうへまとせい
やどり小ふす事すへやす／＼もやつアス
クアトモヤ／＼ほとけみなるものゝ
えれハトシ／＼ふや／＼トモあく／＼方、う
れづひとよなぐれ佛れあやつせぬゑくよそれ
てりわくのあ／＼やうたなう少はらんさんそれ
かけまうれたのまきゆあらんそわくのまくれ

おやのさんゆきよあ／＼
えナにまんあうかくねんをく／＼めよ
なす一よなけまうとおとあ／＼
あいナニ小あく／＼仏とくみだてまうと
えれい／＼とせわれとくみとあ／＼
えんとすもとのとあく／＼とくみとあく／＼ふかく／＼
きへかてほくふものもあく／＼ふくみく／＼
えれい／＼い／＼まうとあ／＼トク／＼ん／＼竹と
もく／＼おい／＼ハぬへとあまそまふ／＼しと
人／＼う／＼おハキとつみあすふうゆく小ナニの
とた／＼す／＼な／＼うまともうまくほんれひ

んととほとめなきりみふうつたう小入
物あがへりそきくはとめおこひひをさけよ
なちなまよ

たな一アナナラんとあうりてしゅつけんび
もとやけよなもとトアハレテうなふけ
うち方はいかぬす不満てきにゆらんほ
うつらんとかうてトやうじ成ひとむきなわさ
きなちのくわんは原ハ人やくせまにあすすめ
ハとのつゝやつちんすとそわへりうだうん
とかこえんきのハよきともにきーむじまわ
さんぐれもやーより人ハノホモのつ

かうモリを引された中のちもきハアミ麻子
けくならうみかううふみハモんまとすき松
よあううハモトヤゼニスムうのやはえれハ
ロトミンセヒアヒタウリハセトウリとく人とく
はゆれにだうちわん人ヨラウつきてざつた
と赤ふとてかりきやうやはふうんざんきよを
たうがんおとのくをまつわほきやうはんハア
うめかもりきもよらう行くすあききよき人
小ききちめとなちんハオーレキをなうて落てん
とゆるひつてすりんすあれいぬハうてともと
うすんハ山のうせきなうけもあうりと心ハ

わきしまるもくちうりてを心とおこす所一
福んやどいうんとおとせん百千万れなうとほくは
少はすくれうらとまゆまに一聲にくとくうへ
黒やうをもいもんやふかくろ心とおうてひとへ
にあつたうととととんふまひてとやされい三やう
によらひけざんきやうの中小お行くねたとくと
ゑく菩懸んれくとくとまき修ふたとせんさん
聖くよふハ一そい乃やまひとくじるうとくや
だいもんも一そい乃りんあふれやまひとくじた
とくほひまうしきうちれにうの中へもくせらと
つるまほ馬うしきうちハきくうせぬ又一そい

れたうのゆ小如意うもあすくれうら一そい
のくくれゆよがいもんれくとくとくまくわ
とりへたまくまひもつゆうきやうゆほり一めりや
たのちんちんらうくの十感とのそくいりんや采
ニ第ニオヤメをひととやれいきんさいとく一
れ菩懸んとおこし及びうなみゆく大隊ふくれ
をよむゆうもやう球もあらておう歎ませたまよ
えれきう一れらきうわうすすうたいもんれ
もあうたなわうとそくせうあふ人をあう
わうくあく少はすとんせんきのやうふうまくも

ちやかによらいへ風と國乃はあふしトやうかん
大王乃太ふともがりまをハナさん乃くひり
うかりつま捨てるいくい小から大蔵をくさんア
以孙うそもまよふまよまよまよまやうじせし
モリふき事とあけきびとよゆねとひて終ふ乃
あへぬ脚あやもほまもわらまたすひとく
ひじわだんとくさん小入たすひすのかてもやつけ
あたきひナニ年れりひとんきやうくきやうれ
こうとほと二月八日乃けつときもやう
とん詰ひてそよやう實われもとりととくわびて
すものちこうはしゆちやうのきつもとくわたす

ゆるなわはまハ大國のあふしとあひだひうかん
ハゆめはかほあめうのこのあもなふへ一二世
まうううのかうけとむすみひてなくくしやうし
ゑくふもとふまうかくえうとくつてよくせれ
わまうとわうかくえうとくつてよくせれ
うきせいはれいとあことうわすくじまやうせん
ちよれいとあれとくくなよまきなわん鎧れ
くふまうかくへうつまくまくまくひいふ
はまうかくをくれうれらあひそあれほのよ
へまうかくのこまくまくまくまく

小室北小町う一やうしなとりととさうて
あはなくあたはうすそふせれ申小
ほれつまれ日まえあけん
みうとのなうすけうあは
えどとと風をもつて東方あら都
あれととと風をもつて東方あら都
あいえどとと風をもつて東方あら都
あらうれらうらうう
えきよまハモウかの三きくもあぶらの
えりうれじく小なさんとすうん
つ邊のいのち乃きくね風小波ハきやくわれびん
とまよりあふいハめはまく乃くとくとばくふへき
なむ一ぐれゆめさあてのちれはいざんのものせん
せうん一うくゆうそすやうゆう佛を一ぐれに至
くたとくハモフロアリケウチは池よ以海う
きへなるうちすうたきもあふ人のうちすとねす
まんとおりよやんとうあハミテはキ一れをく
まぬとくそれハトトクとんねてうもとくと
ありひてぬすみけるいと小もあふもとくりこて
人れくふとあくす一とくへられてのちよ彼れ
をくまおと志されももひとあくとくまめられ
きわされことくつ邊乃がたきとほくとくとあす

えりはうらまんをすきんかうひとすかをす
すくのいじ城おそきなまよあしこれねやー
えらくがくもふしめつけまどもひで、ほたかあ
えままふを人ちんわやーとそうひまちひま
すきんれくひとだむちーときハ一まいに付く
えふそれあらしゆつをーほりがそあく事も
ねくのもむーとそのたすひまよれハかやう
ぬれとは行不き事うすくはづくすされ
かとけもがせうーゆつをとくられくうとふりせ
られりるじんハやまとーみりくきと出ぬーと
ほとけみある事とほあとのびふなわされハ
わくくのあやつけまでたのふきふかしー七
度さんうくあらーものざい、うをむきうゆく
小大塊うくにあらー財慾人ぐいもくわきすくに
七度さんうくあらはにゆれてらごくふおにぐ
えそせとせとせあああああくとくハいふとくけ
ハきんをまねきをりいりんやだううんをがこと
せあもうくわきうれそおひしゆわまよー下
りやくたううんとがうてとくくくやとけふあを
まふへまわ

ぶらひみふ三かうと志ん一てたうとえなまう
ゆへるも三かうとやうハあうやうううの三つをも
ほとけうたのととけうをまつまくとやううす
まきむとねろくくうアレヤけきやううい
えんトシウいかいせううこちうドぬしやううき
せううとのくなまよするみのりんは心ハシヒ乃
ちやうやうハみふりうみならとまきたまくハ
のじくふねりひまちてあみをひりまくハ
うひ歌くほとけうなまくまくまくまく
うだたすひつけうまんりれぬまくまくまく
とふう一七月まえあれぬふはす
ちあやまきて

あひまられされハ五心ふき衆まれりとかずも
なわとそおもせら飛ける立れ大くうんもみうい
乃トゆしやうれすめふれハモヤくちくれかもひと
あてな城くくほみちとふううめなまく
えんえんハまとりりよもくほうぬうとソヘタ
うしろめとふきすとけうめうたうれハやをあ
ひとわせんとてわうすとまにかうとてやのよ
とれきううとりふすあれハこれよまくすく
ちとあいそんやめいとのくうんとや大聖にそん
のあやへまくうしゆめまきすあゆひぬえん
ふうしんやうのけらえんをかすとひとへよたれん

まゆのあやかによういの清ひくんあら
やほきへにあつすはもやもやうふ
へとりひてくさきうちにはよひ六五よちんすす
へほんをりつみときぬううめ
くさきよりくれみちもやつまふす
もゆふかでせやまれれれ月
もやくすいきとくちやうごくらくとせねりて
わとけふらなまよへやくによういハ一まい
しゅうやうれゑまひとくのハ菩薩と一でく
らくへそくらんとらうひ終よすわまくさんらん
ちれえとくればぬいをもきつゆへよちゆつるん
なつめま如ゑひくらんよあひまひてすみゆ
かしやうぶれ大ういとわうわまよへ業あわむと
ちこ乃きまうる叫かあひだんまうまのくすりみ
力をせひるうゆへアアんらうむ歎あすすれハ
ゆくーによらいとおのえまれに歎せのむやうき
のこあはみういまそれとんじんちれこうびやう
とのそきあいと八やうとくらひよよとらとたしゆ
みえじたひ乃くりんせぢんハカとミナミ外金ん
トナすれしゆしゆとくらひよよとらとたしゆ
くりんぢん乃ひきんかあつとほつてまん

といふじまゝ事とらん理せりやうもへづふ
おまちされ、申くくやうよがよソスミラハシ
えうハヨ被らしゆトやうれぬくらのとまひ、
やとけなわうれゆへーやかによらひ、
おリテナ方れ法^{ハシ}菩薩^{ハシ}あまカタキ、申
ふ地^{ハシ}さつにばきてのなまくみらいあくせ
ああうやうきの汝^{ハシ}ぬくす一月一夜をも
あくたすへおとくまよ事あつ事ともせられ
トうち^{ハシ}いの事よもひとめあとを
ぢらうやこつトイのりをもてさんせごひやうれ
ソんたうひの志やうとあよきたまよつきをもねへ

さんぬ^{ハシ}とふりてゆうれ膳人^{トヤ}あふい
ハナ^{ハシ}となわて目^{ハシ}とのざいゆんとすくひ^{ハシ}
あまうあらぐく^{ハシ}乃^{ハシ}まね^{ハシ}かく^{ハシ}れハ^{ハシ}
らぬ^{ハシ}ゆ^{ハシ}ふうりつまく^{ハシ}とうけ終^{ハシ}
のえ^{ハシ}すまい日^{ハシ}のび^{ハシ}小^{ハシ}とたむ^{ハシ}
えふんを^{ハシ}ひまよ^{ハシ}きう^{ハシ}いく^{ハシ}
五^{ハシ}やく^{ハシ}い^{ハシ}福^{ハシ}ら^{ハシ}そんゆけ^{ハシ}よ^{ハシ}
えくきわらやうた、^{ハシ}ゆくに^{ハシ}きやう^{ハシ}そん^{ハシ}ハ^{ハシ}
あくと^{ハシ}い^{ハシ}ばくわう^{ハシ}のあ^{ハシ}も^{ハシ}くら
こうやうつ^{ハシ}おんせ^{ハシ}も^{ハシ}くのち^{ハシ}に^{ハシ}
くと^{ハシ}けん^{ハシ}きうらやう^{ハシ}おと^{ハシ}たま^{ハシ}ふ^{ハシ}

あれはせんせのちまやくもありましますとも
あわゆうもとよ先まつりうかまんほど
なふちまうともとてあしけとよお物ふ入をりで
もうつよふえのらもとまひせきとあるよ
ほうえ田と二たんむらうとつもみよもうらへ
てきくらせりるわふくいうをうにや六
まえほくううわえ人までもまくらの田とつまち
もうひきれんとまくらの山めにふん
ちう圓心まきくらを承りとかがむらひと承
ほくりてうくらんとのあひてうくらうふる傳乃
きうわたまふとこそあらあけこめめあめけ黒ハ
みちとう城ぬえのくじふそきのふまえばくうき
らやう田とよれぬよなふえのくはうたるもんと
りふときき章にねりひありせてうく圓れひとふ
ゆきてみまはられもふじへうれうわうきう
かりひてうく地あれはうくひうそりやあふうん
とソそきかくらてみまはうりてよつちうちほよ
ておうしまーけるとみかまくニ條一ゆ一やくは下
まひきんうく八ふくのうのうのうのうのうのう
ちがくふひりううううすきハテてふうハ

すわざれをなくらうてよまうりとて一年
か三度ほくはか」とほあらるめふとうのめえ
すきやまひ大事もひのちをりま思ともふらう
われてうんぬもふくうにけぬまにつみのをと
とうこあくとけよわゆうなる傍一人きらう
たまひくられ」こにひうねてあやもんをふ
へまくらとあんしほよき」へられきちらまわ小
うねーきてつあふ人をかりまくらとひ
れハヨウハまくさんかくされかくわよあらう
トマおわきをくやう」一路りあわうてうせ路ぬ
こすきよもかくらをふうてあらしく
ありひれいへくそりあらてよくはぢゆ」と
うじひまわくわゆひ」山かうりける女と
久ーくぢら」とほんじなでまうミーゆへか
うくうあやとひらわアひりふかうんきあれ
うみ金んし全ひそこのあらんを山へをくら
けうやう志なしのけ里うきよをくわいらまうと
うて六ノ小まきまくいりんやかくれの
うまた人もかふらうやうとくもまうへ
金ハ三井寺のふいくう乃らこうへくてん小
らうむやうとうけてなふらんするすきんじをも

あすふみみせんやうせはめいとよびの
らせりまをもるトモハめいういもくらやう
うかまわあふむとふれひいふいめりもわも
うトモハふくすく下しゆれゆそく跡
ちやうれぢうとんちむたきひてのむいのちう
うりまくまへまんわうまうきうるんといふち
こうハやぬひのもひこらより、窮けトウリ達
トははもえもが子なれ申と凡はりされれ
わきうはうんどりふものなううよせうくふり
ぶやうとよ出でトモていハたニヤうんちま
うううすそれハこうかうういトモ跡ハ三世ノち

あわやハ一せのじうひとよしせられトモト
せういうよく御トモトモ食よカリミミ被
ふのやうひとよけめいとふあもしくアソリモキ
あまうれとよそとよそとよそとよそと
トモトモトモトモトモトモトモトモト
ハトゆんきにまうきあへトモトモトモトモト
うすとひうれをせうくうひソトモトモト
モふれハうつとせひもかうわけると母れあらう
うれとまそハナにほまうううとすらすと
そとまんすハツホヒシレハセうくう

が以もくほてんといゆぢんあいふのふだん菩
薩さんにはうきぬま寳ひうせんいやこりよもじん
とひまくらほんはえうれうちうほてんそれへ
そんあひこゆる事あくかんとすくむわかい
ものいらん志ばれがんとううきものあらと佛の
ときたまくらかなわれいあやれれんはえうへと
あまうふをんあひなわ志トさうせれんはえうへと
もかまでむのうへちん志原はがんなり教すまに
所えやうれめいうううりうふんはくわき。よもじ
もくもかふくむじぬはえやこよりうたまくべとる
角くねりひびへとりひてうちまわに附るやうひ
いのち小かりうまうのうきやうとうけ立たい食
うすあふらんすえはせうくうたうくありし
け運ハレんそんぬばうれふまうイヒムヒをもて
わき跡へさう乃食よからうてほううびやうとうけ
うち孙うもくハ御主我さんあうちやう福んあうて
うやくう活一死へとひてらうもいきのまほゑ
ううのふきうれあまうこすくれふせはまうと
とふーたすのであんら除れめいようり歎事あれ
あれハせうくうやすひなちまち魚のゆうーと
一やうとおみといのちうすうわきうれハナスニ

せれもよ候へ一たひうんちんもとそくらせ路へハ
 以つまのひうんもくふかくのもくへ室一ハリツ
 被りをうけまでもう一まを「あみをち捨」といと
 うふなわすまへアスリウくれまやうほんうん
 うんのくとくとくアスリヘヤアシトモ
 もんとふ人うち一月アリ子れソヌものとしあす
 トヨはえわねまもじろすふ乃拘ひをもすすきん
 ヨヤウカランつきて大比縛スリもちらでくうんと
 くふかすいくうにせひんじ一うせよぬきて
 事わからまよつてアリムくわきにういてらうくの
 リふへふはりふやまとてもちまちみすアキリ

とあ然といもんや心とほくこくにとよそつ參
 うさんくとくいつもくわすんえいりかううんれ
 うんざんハ一ぐんをくまくとくハ一くいきやう
 を面方角んをくまうアリくとくむすりヒツコニ
 そんせうしたう小れくとくハみくれすリハヤアユ
 かよリす理せ小ウミをきす年をおり九條のう太
 頭もほすけハ面きありリふゆきあひまくふりえん
 せううにとよそて既て恩ノアシとれうきなまふみ
 きんうんとくたんれおふよねをまよううはとく
 きあひをまうア勝テう小をぬひくと見終ふ火

かううすすらなまひええへめいよのぬを
もあもふらやのいそとうのくわきとじふと
ふえんやすくへうんすくきのなちみゆく傍
をくぞとすとすとすとすとすとすとすと
くのれひくうきなくそはひのひくゆーへ
とせわすみれおときうるほ所とくやりす
ひはついたきぬへす大國よなをとやくむ
ちあわわわわわわわわわわわわわわわ
名されはきうハリヨイふ被もとやうそれかた
うとあうなわうととうてらす三りうハシ
まんぬのこく一か)ハまんをれこくとじなまへ

ミソチハアホのくくサふほまのまともはハ
まんりれつちよよぶれえあうくーこうやう大隊
ハくくハ大隊のことーきのきうくあよよよえん
うやとこせとれながつわうわそめともーゆつけ
れだとゑたしんあとけくりよへうすゆい
をとひしあをうううでーゆつけとれら
志はれナーうしりうじまきてくとくくふ
あふかとりうき財たとまきりを傍せわがくら
ーうを立万一千れりといぬよむまれきら
ハツラ小もあれは所とくやう一でまふ一やうく
らくといねりまよへまをも

